

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 8 月 19 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・博士課程学生
氏名	松島 慶

1. 派遣国・場所 (○○国、○○地域)
白帝セミナーハウス、日本モンキーセンター (愛知県)
2. 研究課題名 (○○の調査、および○○での実験)
ブッダセミナー「ワークショップ：科学コミュニケーション」
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 29 年 7 月 23 日 (1 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (○○大学○○研究所、○○博士/○○動物園、キュレーター、○○氏)
大淵希郷 (野生動物研究センター特定助教・日本モンキーセンターキュレーター)
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<p>本セミナーは、科学コミュニケーションのワークショップとして、実習と座学が 1 日間で行われた。また、翌月に開催される丸の内キッズジャンボリーに向けての実習も兼ねての開催となった。講師の大淵希郷先生は、元日本科学未来館の科学コミュニケーターで、現在野生動物研究センターの特定助教、また日本モンキーセンターのキュレーターを勤めている。</p> <p>当日は、まず午前中にセミナーハウス白帝にて科学コミュニケーションとは何かについてのワークショップが行われた。そこで、科学コミュニケーションとは、相手の科学リテラシーを向上させるためのものであることが解説され、そのためには相手とのイメージの共有が重要な点であることを説明いただいた。このお話を元に、午後には日本モンキーセンター内で実習が行われた。</p> <p>実習では、来園者の会話を聞くことと、実際に話をし、自分の研究の話と結びつけるという 2 種類を体験した。すると、同一の展示を見ていたとしても、実際に持つ感想は人それぞれだというのが体感できた。そのため、会話を行う際も、相手の興味に合わせて話の内容を変える必要があった。実習後には再度セミナーハウス白帝に戻り、参加者内で結果をお互いに共有した。</p> <p>最後には大淵先生の科学コミュニケーターやファシリテーターとしての経験談についてお話ししていただいた。その際には他の科学コミュニケーターの方のお話も織り交ぜて紹介いただいたが、内容もアプローチも様々で、科学コミュニケーションには何か「正しい」手法があるわけではないということだった。</p> <p>今後、一般の方々に専門の内容や自身の研究について紹介する機会がたびたびあると思われるが、本セミナーで学んだことを意識して、自身の話が相手に伝わっているか、どうすればより伝わるか、そして何よりそれが相手の科学リテラシーの向上に繋がるかといったことを忘れずにいたい。</p>
6. その他 (特記事項など)